



平成 27 年 6 月 23 日

第 5 回オリンピック・パラリンピックに伴う

大規模施設対策等小委員会を開催

日本物流団体連合会は、6 月 18 日（木）に、千代田区の全日通霞が関ビルにおいて、オリンピック・パラリンピックに伴う大規模施設対策等小委員会（座長：流通経済大学 苦瀬 博仁教授）を開催した。昨年度から通算して、5 回目の小委員会である。

今回の委員会では、3 月に取りまとめた提言をより具体化させることを目的として、新たに建築・設計に携わる複数の専門家の参加も得て、活発な議論が行われた。

まず、プロロジスのコンストラクション・マネジメント部、福永部長より、大型物流施設センターの設計に際し、物流業務にどのように配慮しているかという点について、事例を紹介しつつ説明が行われた。

続いて苦瀬座長より、3 月の提言で、物流業務を行う上で課題があるとされた-①入り口の高さ、②荷さばき場・駐車スペース、③貨物用エレベーター、④館内動線-について、具体的な設計改善の考え方が示され、それに基づいて活発な議論が行われた。

次いで、長年建築・設計に携わってきた日通不動産の平野取締役より、大規模建築物の設計業務と行政側との設計協議などの手順について説明があり、物流事業者側が、物流に配慮された設計を実現するために、建築物の設計担当者と、どのようなタイミングで、どのような事項を協議していけばよいのか、というような点について解説が行われた。

最後に今後の活動として、今回の資料や委員・有識者からの意見を元に、物流業務に配慮された大規模建築物の在り方に関し、具体的な施設の基準などを、出来るだけ数値を用いて明らかにし、中間報告を取りまとめる作業を進めることが確認された。



小委員会全景



挨拶する苦瀬教授



プロロジス、福永部長



日通不動産、平野取締役（中央）

以上
事務局：笹山